砂月 花斗
illustration
なると 真樹
腐ったパパの
淫らな企み

腐ったパパの淫らな企み

《立読み版》

砂月　花斗

イラスト　なると　真樹

「親父、邪魔」
チッ、邪魔なのはてめ～だろ。
頭上から届いた声に、衛星放送でサッカー中継を見ていた水島聖（みずしまさとし）が顔をあげた。
「それ、俺のだ。勝手に飲むな」
息子の啓太（けいた）が、腰にタオルを巻き付けただけの姿で背後に立っていた。
その手には聖が風呂上がりに飲もうと冷やしておいたビール缶が握られている。
「ケチケチするなよ。あ～、うめ～。風呂上がりにはビールだろ」
啓太がこれ見よがしに顎に垂れた液体を手の甲で拭う。
聖の気持ちを余程逆撫でしたいらしい。
コノヤロウッ、俺のビールを！
見事にカチンと来た。
「もう口付けたから、これは俺の。そんなことより、退（ど）いてくれない？　みたい番組あるんだけど」
あぁあ？　この上退けだと！？
そして、ブチッと切れた。

「高校生に飲ませる酒はない。返せ」
ソファから立ち上がると啓太からビール缶を奪い取った。
「ちょ、テメェ、何するんだよっ！」
更に奪い返そうとする息子の手を払い、目の前でゴクゴクッと喉を鳴らして流し込む。
「あ～、美味いな。よく冷えてる」
横目で啓太をチラ見しながら、先に口を付けられた分の恨みを上乗せして美味さを強調した。
「間接チューとかキモイことするなっ」
啓太が逆ギレモードで反撃に出た。
「な～にが、間接チューだ。キモイのはお前だろ。この童貞が」
「はい？　な～に、いってんの。この俺様が童貞？　ありえね～」
バカが。知ってるさ。勝ち誇ったように言いやがって、全く恥ずかしい野郎だ。
お前の【ご卒業】は中二のときだろうが。相手は家庭教師の女子大生。中坊のガキにＡＶ並の環境を整えてやったのは、誰だと思ってるんだ。喰われるだけ喰われてバイバイされたくせに威張るなっていうの。しかも、ありゃ、彼氏持ちだったろ。

「そりゃ、失礼しました。啓太さまは大人ってわけだ。だったら、親とチャンネル争いする年でもないな。サッサと自分の部屋へ戻ってエロ本と添い寝しろ」
啓太の腰に巻いてあったタオルを引っぱがし、ドアに向かって投げてやった。
タオルが見事にドアノブに引っ掛かる。
「ゲ、っに、するんだよ！」
啓太が慌てて前を手で隠したが、全部は無理だった。
身長だけでなく、ソコもかなり成長していた。手からはみ出している部分が、それなりの経験値を物語っているのが憎ったらしい。
「隠すほどのものかね。小便小僧のブツの方がよっぽど立派だ」
「ジロジロみてんじゃね～ぞ！」
なるほど、まだ羞恥心もミジンコぐらいには持ち合わせてるってことか。
「喚(わめ)く暇があれば、パジャマ着ろ。風邪ひいても看病期待するなよ」
「だ～れが、するかっ。このクソオヤジ」
腹いせ紛れにソファの背を蹴散らし、啓太が出て行った。

やれやれと聖が座り直し、サッカー中継に戻る。
啓太と無駄なやりとりをしていた間に、応援していたチームに得点が加算されていた。
いいところを見逃してしまったではないか。
少し温くなったビールに口を付ける。
このビールだって風呂上がりに俺が飲むはずだったんだ。
まったく、誰に似て、こんなに可愛げのない息子に育ったんだか。

――俺か…

深い溜息が聖から洩れる。
自分に瓜二つのスッと整った顔。
自分と同じく真っ黒でさらさらの髪質。
さっき見たところ、陰毛の毛質も似ている模様。
最近は図体まででかくなりやがって…って、図体だけじゃなかった。今に身長もソコも並ぶだろう。

加え、性格まで悪いときている。
親のビールを横取りするような子だ。
親に尊敬の念もなければ感謝もない。昔の自分にクリソツだ。
何が哀しくて、自分のコピーと毎日顔を突き合わせて暮らさにゃならんのだ。
こんなことなら、シングルライフを貫き通せばよかった。
適当に相手を見繕い遊ぶことだけに満足していれば良かったんだ。
選択肢を間違ったな。
玲二(れいじ)が 唆(そそのか)すから俺の人生は狂ってしまったんだ。
何が哀しくて、ゲイが父親なんていう似つかわしくないことを長年やる羽目になったんだか。
ああ、そうだ、全て玲二のせいだ。あの野郎のせいだ。
ちゃっかり邪魔だった姉を押し付けやがって。
玲二――夏目玲二(なつめれいじ)というのは、聖の元嫁の弟である。義弟以前に聖のセフレ、いわゆるセックスフレンドだった。
その当時、聖には三人のセフレがいたが、その中でも一番身体の相性がよく、後腐れのない相手が玲

二だったのだ。

まさかその後、息子を挟んで切っても切れない間柄になろうとは…。

といっても、結婚して啓太が生まれ三年で離婚したので、今はもう親戚付き合いもなければ、顔を合せることもない。避けているつもりはないが、人の人生を変えやがってと聖が苦々しく思っているのは事実だ。

――俺も少々食傷気味だったんだよな～

サッカーボールの移動を目で追いながら、聖の脳内は完全に別の画像を映し出していた。

※続きは製品版でお楽しみ下さい。

腐ったパパの淫らな企み

《立読み版》

発行日　２０１２年５月２５日
著者名　砂月　花斗
イラスト　なると　真樹
発行所　【ＭＩＬＫ－ＣＲＯＷＮ（ミルククラウン）】
株式会社水晶院
http://www.milk-crown.net/

(C) Hanato Sunatsuki 2012

※本著作物の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。